

<全体分析>

試験時間 2科目で150分

<p>解答形式                  論述 (1行30字 2行×2、3行×3、4行×1 5行×1 計22行)                  分量・難易 (前年比較)                  分量 (減少・やや減少・変化なし・<b>やや増加</b>・増加)                  難易 (易化・やや易化・変化なし・<b>やや難化</b>・難化)                  出題の特徴                  第1問～第4問とも昨年度と同様の出題形式であったが、第2問で昨年度にみられなかった図版を利用した問題がみられた。                  その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)                  特になし。</p>
--

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	論述 A 2行 B 4行	A 8世紀の習字木簡の背景 B 中国の書の定着に律令国家や天皇家が果たした役割	A 律令国家が文書行政をとったこと、大学や国学で儒教が重視されたことの2点を念頭に答案をまとめたい。 B 設問の要求が曖昧なため、答案をまとめるのが難しかったであろう。	やや難
第2問	論述 5行	16世紀の山鉾運営と町の自治	文章(3)と図2の関係に注目しながら、与えられた文章を丁寧に読み込んでまとめれば答案は構成できる。	標準
第3問	論述 A 2行 B 3行	A 改暦に江戸幕府と朝廷が果たした役割 B 改暦時に依拠した知識の推移	A 幕府が実質的な改暦の権限を有し、朝廷が形式的な面を担ったことを明確に区分して説明したい。 B 「幕府の学問に対する政策」として、漢訳洋書輸入の禁緩和が想起できたかがポイント。	やや易
第4問	論述 A 3行 B 3行	近代的軍隊の創設	A・Bともに史料の内容を丁寧に読み取り、史料の内容に沿って、Aでは「政府の方針と社会の情勢」、Bでは「国内政治の状況」を説明する必要がある。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

<p>代表的な過去問に目を通し、日頃の学習にそれを活かしていくこと。その際、できれば解答を作成し、添削指導を受けることが望ましい。そして、夏期講習段階で予想問題にチャレンジすること。また、文化史を不得意分野にしないこと。作品暗記だけの文化史学習では通用しないことを意識して、政治・外交・経済との関わりに十分注意すること。</p>
--